

第16回 武蔵野市第五期基本構想・長期計画策定委員会 議事要録

-
- 日 時 平成23年11月17日(木) 午後7時～午後8時44分
- 場 所 市役所811会議室
- 出 席 山本泰委員長、見城武秀副委員長、
小竹佐知子委員、近藤康子委員、作部径子委員、前川智之委員、松本すみ子委員、
会田恒司委員、井上良一委員
事務局(企画政策室長、企画調整課長他)
- 傍聴者 3名
-

1. 開 会

2. 議 事

(1) 答申案について

委員長：策定委員会最終回では、市長に答申する委員会案の確認をする。

事務局：資料1の「はじめに」から第7章の、前回までに委員会で議論したところを修正した。第7章は、財政課とやりとりをしながら、12月20日以降に出る財務省内示を加味する。全体の数字をフィクスできるのは年明けになる。資料2は、各分野における体系図に基づいた基本施策、施策、事業の前期5年の実施計画、後期5年の展望計画である。

<はじめに>

事務局：「はじめに」は、市長との意見交換をベースに「まちづくりの視点」が3点、「まちづくりの目標」が4点という構成になっている。「視点」の2)「環境意識を行動に移そう」の「環境」を取って「意識を行動に移そう」にしてはどうか。

委員長：「はじめに」のリード文の最後「開いていく必要がある」よりも、サブタイトルを生かして「取り入れながら、武蔵野市から新しい都市像を開こう」と書いたほうがきれいだ。

副委員長：1)の「それぞれの自治」の「それぞれ」は何を意味しているか。

事務局：市民、事業者、行政である。

委員長：「してきたことにより、現在の本市の姿が形成されている」は「してきた。」で切るほうがいい。

3) の2段落目「都市文化の表出である美しい街並み」は唐突ではないか。

委員：「まちづくりの視点」の2) は、「環境」の文字はないが、「ごみの減量、省エネルギー・資源リサイクル」と日常の生活のことが書かれ、「まちづくりの目標」の4) は「身近な緑、多様な生物など、健康で安心して」云々と大きな世界を語っている。内容が逆ではないか。

委員：2) の下の2行をカットしてはどうか。意識化から行動化ということで、違うニュアンスで書ける。

事務局：2ページ目のパターンで書かれた自治体の総合計画はあるが、1ページ目のパターンはほとんどない。この特色ある形でまとめたい。

委員長：正副委員長にご一任いただきたい。

委員：「目標」の2) の「地域福祉」は「地域」を取って「福祉」だけにしたほうがいい。

副委員長：4) の「きれいな水、身近な緑、多様な生物など、」から「環境と共生するまちづくり」の文は、「健康で安心して生活できる環境を次の世代に引き継ぐために、」でいいのではないか。「都市文化の表出である」は取ったほうがいい。

委員長：次に「市勢」と続くと、出だしだけで読み終わってしまう市民がいなくてもいい。「コミュニティ」という言葉はどこかに入れたいので、「支えあいのまちづくり」の3行目の「地域コミュニティ」として入れておく。

10ページの「放射線による健康面への不安の解消など、」に続く「必要な対策等について考慮する」とはどういう意味か。「検討」ということか。

委員：「検討」よりも「考慮」のほうが、まだ取り組む姿勢、考えて熟慮するというニュアンスがある。

委員：前回「対策等を考慮する」と申し上げた。

事務局：東日本大震災の影響で自治体に新たな責務が生じたことは「対策等を考慮する必要がある」といいかえたほうがわかりやすいのではないか。

委員長：「対策について考慮する」では日本語としてよくわからない。

13ページの2)「ネットワーク化の推進」は、議会から「何をいつているのかわからない」と指摘を受けたきり、そのままになっている。

事務局：支援のネットワークを重層的につくることで救う、支援するという意味である。「多層なネットワーク」としたほうがわかりやすいのではないか。

委員：「子育てネットワークづくり」とは、子育て支援のネットワークか。

副委員長：「子育てネットワークの多層化」でどうか。子育てネットワークは、強いネットワーク1本ではなく、弱いネットワークを重ね合わせることで最終的にきちんとサポートするイメージだ。

< I 健康・福祉 >

事務局：漢字表記を他分野と統一を図ったほか、16ページの1行目、ストレスを抱える原因を丁寧に書き加えた。

委員長：「障害児」の「害」は漢字表記か。

事務局：国は途中まで平仮名だったが、障害者総合福祉法では漢字に戻っている。

委員：策定委員会での議論でも、「害」を使って国の法律と合わせることに決まっている。

< II 子ども・教育 >

事務局：基本施策1のリード文の2段落目で「なお、現在国において」を追加した。「(3) 保育サービスの充実」では「適正な負担」をはっきりさせるために費用負担について書いた。「(1) 子育て支援実施体制の整備」の地域子ども館あそべえ事業と学童クラブ事業について文言を整理し、時間軸を整理した。

委員長：「費用負担」は一回消えたが、国が動き出したことから、また出てきた。

全体についてだが、体系図と施策の説明のチェックはどうなっているか。

事務局：各分野でチェックしている。

< III 文化・市民生活 >

事務局：基本施策4の(1)は、「生涯学習情報の一元化」を「各主体間の連携、ネットワーク化の推進」の後に持っていく記述にした。

分野のリード文の最後、『参加と学び』の循環」を広がりのあるものとして位置づけた。

委員：「広まりを持った」の意味がわからない。

事務局：「広がり」の誤植である。

委員長：全体を通して「検討」の使用は減らし、言葉を使い分けて丁寧に書こう。「など」「等」も必要最小限にする。

事務局：「検討」を無理やり別の言葉を置き換えると苦しい文章になり、「など」を刈り込み過ぎると、後の政策展開がしづらくなる。1文中に「など」が2回出ていないかも含めて精査する。

<IV 緑・環境>

事務局：基本施策5のリード文中「しかし、市民生活に最も身近な基礎自治体として市は、」「国・都道府県とともにそれぞれの役割と責任を果たしていくなかで、」を追加した。

(1)では「市は、」という主語を明記、追加した。放射能に限らずこれからも新たな環境問題が起り得ることから、文章を追加し、「市民の安全安心を確保していく」と結んでいる。

委員：基本施策3の(1)「緑の保全と創出」は。

事務局：趣旨は変わっていないが、「緑を守りはぐくむために、借地公園等の買取り、または旧東町図書館室や」という書き出しを変更し、事業、事例を正確に表現した。

委員：基本施策5の(1)の最後の2行目、「情報収集・測定や的確な情報提供」の「的確な」は「情報提供」だけにかかるのか。

委員：情報提供は取捨選択して的確にすることが必要だが、「的確な」を「情報収集」まで入れると、必要に応じて情報収集しないことにもなる。「測定」も分析もデータを集めなければならないのだから、情報収集はやらなければならない。

委員：政策の最適化の観点からは、すべからず全部測定すべしということとはできない。

委員：情報収集は、一般的にはデータを集めることが前提だ。

委員：「情報収集・測定」の「・」は何か意味があるのか。

委員：測定も情報収集の1つだ。「必要な情報提供」では、必要のないものは隠してしまうと解釈される。「的確な情報提供」なら、知りたい人に知りたい情報を届けることになる。

事務局：「必要な情報収集と的確な情報提供」と使い分けてはどうか。

委員長：「必要な」は、市にとってではなくて、市民にとって必要ということか。

委員：主語は「市」だ。

事務局：「・測定」を削除する。

<V 都市基盤>

事務局：(5)「自転車利用環境の整備と交通ルール・マナーの啓発」で、自転車のプラス面の記述を加えた。

委員長：短期的、長期的な問題もあるし、駅前の問題と全域の問題という目配りが反映された記述だ。

事務局：自転車にはいろいろご意見をいただき、無作為抽出のワークショップでも、効能と課題の両面が出た。ご意見を反映させるには問題のありかを分ける必要があることから、この形にした。

<VI 行・財政>

事務局：基本施策1の(1)「市政運営への市民参加の拡大」の「そのため、多様で広範な市民の参加を得られるよう」に続く部分を追加した。(2)「連携と協働の推進」で「市民協働サロンや武蔵野プレイスの活用等を通じて」を追加した。いずれも具体的な事例を入れたほうがよいのではないかという議論を背景にしたものである。

基本施策3の(3)「広報と広聴の連携の推進」の2行目も、事例を入れて追加した。

委員長：プレイスにある協働の場所は民民で、市民協働サロンは行政と民間ということか。

事務局：行政とかかわりのある市民活動を中心にしている。

委員長：場所があるわけではないので、市民活動センターはセンターとは書いていないということか。

事務局：プレイス自体の大きな役割の1つになっている。

委員長：「計画的な市政運営」は方向性のない議論を書いているので長期的な視点を持つといった最大化の手法を反映したらどうかということが、忘れられている。

委員：「少子高齢化や低経済成長社会への移行などを背景として」と書いてあるからいいのではないかという意見もあった。

基本施策6の庁内の話は問題ないか。また、基本施策6の(1)は、最後にもう一度ぜひ目を通してほしい。

委員：市の財政が厳しいことを入れるという話だったが。

委員：厳しいというのではなくて、厳しいことも覚悟しなければならない、財政面は甘くないというワーディングを9ページのほうに入れる必要がある。

<第7章以降>

事務局：第7章以降は、まだ修正版になっていない。1の「日本経済の動向」の中身は時点修正を入れる。29日の答申までに修正するほか、最終議決をいただいて公表する時点でも時点修正をする必要があるので、今、財政課と詰めている状況である。

委員長：東京都26市中で担税力がトップになっている件はどうなったか。

事務局：切るようにリクエストしている。

委員長：隠す必要はないのではないか。

委員：来年も再来年もトップが続くとは限らない。

委員長：トップだからこそ、今後大きなお金が必要になるから積立をしなければと書いたほうがいい。

委員：トップなら税金を下げろという声が結構あった。

事務局：44 ページは、トップに関する記述で始まり、「楽観できない状況である」で締めている。

委員長：第7章以降には、財政計画の資料、委員名簿、体系図、用語解説、索引、個別計画の進行表がつく。市長に答申するときには、それらは入っているのか。

事務局：おおよそできており、間違いないか庁内で確認している。

委員長：原課につくってもらったものは活用しないと、つくった者のやる気をなくさせることになる。策定委員会としては以上の形でお認めいただき、あとは正副委員長にご一任いただきたい。

3. その他

委員長：ことしは3月に地震があり、市側の仕事量が急にふえたことで日程を組み直したり、新たな課題が浮上することで市民の意識も随分変わった。しかし、仕事が大変だった分、新しい風が入ったのではないか。事務局も委員も粘り強くかかり、何より市民が非常に熱心に参加したことも今回の成果だ。ワーキングとも非常にいい雰囲気の仕事ができたことをとてもうれしく思う。ご迷惑をおかけしたこともあったが優しく接していただいたことに感謝する。

————— 了 —————